

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 1 月 28 日 (2021.1.28)

【公開番号】特開 2020-11919 (P2020-11919A)

【公開日】令和 2 年 1 月 23 日 (2020.1.23)

【年通号数】公開・登録公報 2020-003

【出願番号】特願 2018-134505 (P2018-134505)

【国際特許分類】

A 6 1 K 9/70 (2006.01)

C 0 9 J 183/06 (2006.01)

C 0 9 J 183/05 (2006.01)

C 0 9 J 183/07 (2006.01)

C 0 9 J 7/38 (2018.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

C 0 9 J 7/20 (2018.01)

A 6 1 K 47/34 (2017.01)

【F I】

A 6 1 K 9/70

C 0 9 J 183/06

C 0 9 J 183/05

C 0 9 J 183/07

C 0 9 J 7/38

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 11/04

C 0 9 J 7/20

A 6 1 K 47/34

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 12 月 9 日 (2020.12.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記 (X)、(C)、(D) 成分を含有する皮膚貼付用付加反応硬化型シリコン粘着剤組成物。

(X) 下記 (A) 成分と下記 (B) 成分の混合物、又は、下記 (A) 成分と下記 (B) 成分の縮合反応生成物：100 質量部

(A) 下記 (A1) 成分及び (A2) 成分からなり、(A1) / (A2) の質量比が 90 / 10 ~ 15 / 85 の範囲にあるジオルガノポリシロキサン：55 ~ 90 質量部、

(A1) 1 分子中に 2 個以上のアルケニル基を有し、アルケニル基含有量が 0.0005 mol / 100 g 以上 0.15 mol / 100 g 未満であるジオルガノポリシロキサン、

(A2) 末端に SiOH 基を有し、アルケニル基を有さないジオルガノポリシロキサン、

(B) $R^1_3SiO_{0.5}$ 単位 (R^1 は独立に炭素原子数 1 ~ 10 の 1 価炭化水素基

である。)と、 SiO_2 単位と、ケイ素原子に結合した水酸基を有するシロキサン単位及び／又はケイ素原子に結合した炭素原子数1～6のアルコキシ基を有するシロキサン単位とを含有し、 $\text{R}^1_3\text{SiO}_{0.5}$ 単位／ SiO_2 単位のマール比が0.5～1.5であるオルガノポリシロキサン：10～45質量部(但し、(A)成分と(B)成分の合計は100質量部である)、

(C) SiH 基を1分子中に3個以上含有するオルガノヒドロジェンポリシロキサン：(A)成分中のアルケニル基に対する(C)成分中の SiH 基のマール比が0.2～1.5となる量、

(D) 白金族金属系触媒：(A)成分及び(B)成分の合計量に対して質量基準で白金族金属分として1～5,000ppm

【請求項2】

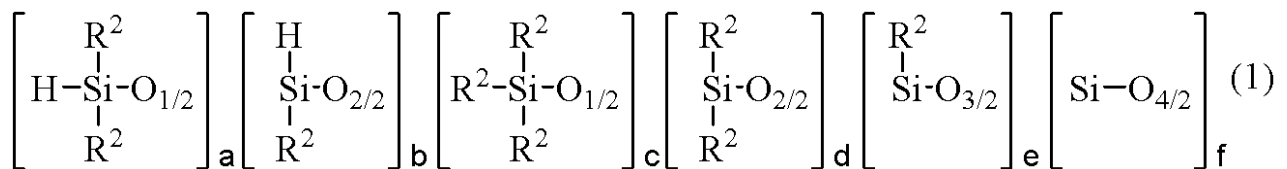
さらに、下記(E)成分を含有するものであることを特徴とする請求項1に記載の皮膚貼付用付加反応硬化型シリコン粘着剤組成物。

(E) ヘキサン、ヘプタン、イソオクタン、オクタン、デカン、シクロヘキサン、メチルシクロヘキサン、及びイソパラフィン(沸点範囲115℃から138℃)から選ばれる少なくとも1種の脂肪族炭化水素系溶剤：(A)成分及び(B)成分の合計100質量部に対して25～900質量部

【請求項3】

前記(C)成分が、下記式(1)で表されるオルガノヒドロジェンポリシロキサンであることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の皮膚貼付用付加反応硬化型シリコン粘着剤組成物。

【化1】



(式中、 R^2 は同一又は異種の、脂肪族不飽和結合を有さない炭素原子数1～10の1価炭化水素基であり、aは0以上の整数、bは1以上の整数、cは0以上の整数、dは0以上の整数、eは0以上の整数、fは0以上の整数、 $a+b \geq 3$ であり、 $3 \leq a+b+c+d+e+f \leq 1,000$ である。)

【請求項4】

前記(A)成分における(A1)／(A2)の質量比が75／25～25／75の範囲となる量であることを特徴とする請求項1から請求項3のいずれか1項に記載の皮膚貼付用付加反応硬化型シリコン粘着剤組成物。

【請求項5】

前記(X)成分が、前記(A1)成分と前記(A2)成分と前記(B)成分の縮合反応生成物、又は、前記(A2)成分と前記(B)成分の縮合反応生成物と前記(A1)成分との混合物であることを特徴とする請求項1から請求項4のいずれか1項に記載の皮膚貼付用付加反応硬化型シリコン粘着剤組成物。

【請求項6】

さらに、(F)成分として、付加反応制御剤を(A)成分及び(B)成分の合計100質量部に対して0.05～8質量部含むものであることを特徴とする請求項1から請求項5のいずれか1項に記載の皮膚貼付用付加反応硬化型シリコン粘着剤組成物。

【請求項7】

基材と、該基材の少なくとも片面に積層された硬化物層とを有する皮膚貼付用粘着テープであって、前記硬化物層が、請求項1から請求項6のいずれか1項に記載の組成物の硬化物からなることを特徴とする皮膚貼付用粘着テープ。

【請求項8】

請求項7に記載の皮膚貼付用粘着テープを皮膚に貼付することを特徴とする皮膚貼付用

粘着テープの使用方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

また、アクリル系やゴム系の接着剤と比べて、シリコーン粘着剤は、剥離時に体毛や皮膚の角質層を剥離しにくい特徴があるが、剥離後、再度貼付する時に、粘着力が低下する問題がある。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

式(3)中、水酸基でない場合の R^4 は互いに独立に、芳香族不飽和結合を有さない炭素原子数1～10、好ましくは1～8の1価炭化水素基であり、 R^4 としては、メチル基、エチル基、プロピル基、ブチル基などのアルキル基、シクロヘキシル基などのシクロアルキル基、フェニル基、トリル基などのアリール基が例示され、メチル基又はフェニル基が好ましく、特にメチル基が好ましい。フェニル基を含む場合は、フェニル基の含有量は式(3)のジオルガノポリシロキサン₂のケイ素原子に結合した全有機基中の0.1～30モル%であるのが好ましい。該含有量が0.1～30モル%であれば、得られるシリコーン粘着剤層の粘着物性(タック、粘着力)が好ましいものとなり、皮膚貼付用粘着剤の適性が向上する。